

令和6年度(2024年度)年間授業計画表

学年	1	コース	全コース	選択形態	必須	科目	歴史総合	単位	2
学習目標	歴史の展開を地理的条件や世界の歴史と関連付けて学ぶことによって、それらの課題についてより深く理解し、解決していくために歴史的な思考力、公正な判断力、豊かな表現力を身に付けること								
使用教科書	現代の歴史総合 (81山川 歴総708)	副教材	ダイアログ歴史総合 (第一学習社)	予定時間数	70	実施時間数			
単元と内容									
1学期	第Ⅰ部 近代化と私たち								
	第1章 結びつく世界と日本の改革		18世紀の東アジアにおける社会と経済、貿易が結んだ世界と日本、産業革命、中国の開港と日本の開国						
	第2章 国民国家と明治維新		市民革命、国民国家とナショナリズム、明治維新、日本の産業革命、帝国主義、変容する東アジアの国際秩序、日露戦争と東アジアの変動						
2学期	第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち								
	第3章 総力戦と社会運動		第一次世界大戦の展開、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ヴェルサイユ体制とワシントン体制、世界経済の変容と日本、アジアのナショナリズム、大衆の政治参加、消費社会と大衆文化						
	第4章 経済危機と第二次世界大戦		世界恐慌の時代、ファシズムの伸長と共産主義、日中戦争への道、第二次世界大戦の展開、第二次世界大戦下の社会、国際連合と国際経済体制、占領と戦後改革、冷戦の始まりと東アジア諸国の動向、日本の独立と日米安全保障条約						
3学期	第Ⅲ部 グローバル化と私たち								
	第5章 冷戦と世界経済		冷戦下の地域紛争と脱植民地化、東西両陣営の動向と1960年代の社会、軍拡競争から緊張緩和へ、地域連携の形成と展開、計画経済とその波及、日本の高度経済成長、アジアの中の戦後日本						
	第6章 世界秩序の変容と日本		石油危機、アジア諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報技術革命とグローバリゼーション、冷戦の終結とソ連の崩壊、現代の東アジア、東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化、地域統合の拡大と変容、地域紛争と国際社会、現代と私たち						
評価									
評価の観点			評価の趣旨			評価対象			
						1学期末	2学期末	学年末	
①	知識・技能		基本的な歴史事象に関する知識を身に付け、各時代の特色を理解しているか。 日本の歴史の展開を、地理的条件や世界の歴史と関連付けて理解しているか。 日本の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、有用な情			○	○	○	

		報を適切に選択することができるか。得られた資料や情報を効果的に活用し、歴史を探究する学び方を身に付けているか。			
②	思考力・判断力・表現力	日本の歴史の展開から課題を見出し、世界の歴史や国際環境等と関連付けて、実証的、多角的、多面的に考察しているか。 歴史的に形成された諸課題について、さまざまな理解・立場があることをふまえて、公正に判断しているか。課題についての考察や判断の過程や結果を、適切な方法を選んで効果的に表現しているか。	○	○	○
③	主体的に学びに向かう態度	歴史的事象と現在との結び付きを意欲的に調べ、考え、歴史を学ぶ意味に気付き、関心をもって主体的に学習に取り組んでいるか。 現代の社会が抱える諸課題について、平和で民主的な世界、地域、国、社会を形成していく主体としての自覚をもって考える態度を身に付けているか。	○	○	○
評価方法例	①		②		③
	定期考査 80 %		定期考査 20 %		定期考査 50 %
	レポート 10 %		口頭試問 40 %		小テスト 50 %
	相互評価 5 %		各種発表・まとめ 40 %		
	各種提出 5 %				

令和6年度(2024年度)年間授業計画表

学年	1	コース	全コース	選択形態	必須	科目	地理総合	単位	2
学習目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。								
使用教科書	地理総合 (130二宮 地総704)		副教材	詳解現代地図 (130二宮 地図705)		予定時間数	70	実施時間数	
単元と内容									
1学期	第1章 地図とGISの活用								
	①球面上の世界～④暮らしのなかの地図とGIS		地球上の緯度経度、時差と標準時、日本の領域に関する問題、国家間の結びつき、観光による結びつき、地図・GISのしくみと役割など						
	第2章 地理的環境の特色								
	①地形と生活文化～③産業と生活文化		変動帯とプレート、河川や海岸が作る地形と生活、気候の特性、ケッペンの気候区分、工業の発展と生活文化など						
2学期	第2章 地理的環境の特色								
	④宗教・言語と生活文化		宗教の分布と生活文化、生活文化の多様性など						
	第3章 世界各地の生活文化								
	①経済発展と生活文化の変化～ ◆植民と移民による生活文化の形成		経済発展を支える自然・農業と生活文化、宗教にねざした生活文化と産業、経済発展とイスラーム社会の変化、経済成長と自然環境の変化による課題、統合を進める背景と言語・宗教の多様性、移民と多文化社会にみられる課題など						
3学期	第4章 地球的課題と国際協力								
	①地球環境問題～④居住・都市問題		環境問題と持続可能な社会、気候変動とその対策、資源のリサイクル・再生可能エネルギー、人口と人口問題、発達する都市など						
	第5章 生活圏の諸課題								
	①日本の自然環境と防災②生活圏の諸課題と地域調査		世界からみた日本の地形の特色、火山の噴火と防災、防災への心構え～自助・共助・公助～、主題図からみた日本の特徴と課題など						
評価									
評価の観点			評価の趣旨			評価対象			
						1学期末	2学期末	学年末	
①	知識・技能		知識:地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 技能:地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。			○	○	○	

②	思考力・判断力・表現力	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	○	○	○	
③	主体的に学びに向かう態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。	○	○	○	
評価方法例	①		②		③	
	定期考査	80 %	定期考査	20 %	定期考査	50 %
	レポート	10 %	口頭試問	40 %	小テスト	50 %
	相互評価	5 %	各種発表・まとめ	40 %		
	各種提出	5 %				